

日本女子大学附属 中学校

所在地 / 〒214-8565 川崎市多摩区西生田1-1-1
 TEL / 044-952-6705 (中高事務室)
 学校長 / 野中 友規子
 創立 / 1901年開校。1979年、西生田キャンパスに中高統合校舎が完成し、中学校が東京・目白より移転。
 URL / www.jwu.ac.jp/jhsc

	1年	2年	3年
男子	—	—	—
女子	251名	249名	245名
クラス数	6組	6組	6組

中高総生徒数 / 1871名 併設小から 約39%



〈交通アクセス〉
 小田急線「読売ランド前」駅より徒歩10分
 京王相模原線「京王よみうりランド」駅、「京王稲田堤」駅、JR南武線「稲田堤」駅よりバスあり

日本初の女子大学の付属校として自立した女性を育成する

1901年、日本で最初の女子大学として創立された日本女子大学の附属高等女学校を前身に、1948年に新制の中学校として開校しました。学園創立者である成瀬仁蔵が残した「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」を教育方針の三綱領とし、「自ら考え、学び、行動する意欲的な生徒の育成」をめざしています。多摩丘陵の一角に位置する約29万㎡の広大な校地には、大学の人間社会学部や中高校舎のほか、中高専用グラウンドに6面のテニスコートや講堂などがあります。

スクールライフ

●教育内容

中学時代は「自ら学ぶ姿勢を育てる」ことを主眼に置き、自主性を重んじた学習への支援体制として個別指導に力を入れています。3期・週5日制で、夏は1時間50分、冬は45分の6時限授業で、土曜日は学校行事や総合的な学習を実施。英語・数学・国語・理科などで1クラス2分割の少人数制授業を実施し、数学では習熟度別授業も行っています。実技教科はチームティーチングを行い、音楽ではバイオリンが全学年必修となっていることも大きな特徴で、音楽を通じた情操教育にも力を入れています。卒業研究では、中3の1年間をかけて個別のテーマに取り組みます。さらに、各分野で

■主要5教科の週当たり時間(コマ)数

	英語	数学	国語	理科	社会
1年	5	4	4	3	3
2年	5	4	4	4	3
3年	5	4	4	4	4
合計	15	12	12	11	10

◎1日当たりの授業コマ数：50分×6時限

※冬(11月～3月)は45分×6時限

◎登校時間：8時50分

マネーガイド

■2023年度納付金(諸経費を含む)

	入学金	授業料	施設費	その他	計
入学手続時	250,000円	0円	95,000円	0円	345,000円
初年度総額	250,000円	511,000円	283,000円	138,000円	1,182,000円

活躍している卒業生を講師にしたキャリア教室を中3で実施するなど、しっかりとした進路指導体制も敷かれています。

●部活動

中高別に活動しており、全員参加が原則。計24のクラブがあります。

○文化系 / 演劇、文芸、ソーイング、軽音楽、弦楽合奏、コーラス、ミュージカル、茶道、生物天文、物理化学、クッキング、書道、インターナショナル、社会科研究、イラスト

○体育系 / 体操、卓球、硬式テニス、水泳、ソフトテニス、バドミントン、バスケットボール、陸上、バレーボール

●行事

十月祭(中学文化祭)、運動会、音楽会や球技会などが行事委員を中心に行われています。行事を中学と高校で別々に行うので、十月祭などの行事の準備はすべて中学校の生徒で企画・実行されます。

●修学旅行・研修旅行

全学年で宿泊を伴う校外学習を行っています。中1は軽井沢の夏季寮生活を行い、中2は東北を巡ります。中3は国内各地から生徒が興味・関心を持ったコース(平和学習や自然学習、英語研修など)を選択。また、希望者を対象にスキー教室、スケート教室を行っています。

◎寄付金：20万円以上と3万円以上の2種類(任意)

◎授業料：3期分納または一括納入

◎奨学金・特待生制度：独自の奨学金制度あり



※高校は私服可

サピックスからの
合格実績(過去3年)

'21
22名

'22
18名

'23
19名

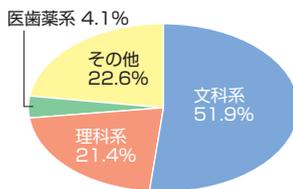
進学指導の概要

高校では高入生と混合のクラスとなります。カリキュラムの最大の特徴は、「しっかりと基礎学力と応用力を育成」することで、文系・理系などのコースに分けず、高3まで全教科を偏りなく全員が学びます。バランスの取れた知識と教養を身につけることで人間としての豊かさが育まれ、コース分けをしてしまわないことで、進路についてじっくり考えることも可能になります。興味を持った分野の知識をさらに深めるため、高2で週2時間、高3で週10時間の選択科目を設け、フランス語、中国語などの第二外国語、古典、児童文学、現代世界史、情報総合、ディスカッション、声楽、工芸など、幅広い分野をより深く学ぶことが

できます。日本女子大学へは、希望すれば原則として推薦され、多くの定員数が用意されているので、ほとんどの生徒が第一志望の学科に進学することができます。また、医学部、法学部など、日本女子大学にない学部であれば、利用できる併願制度も用意されています。例年約8割の生徒が日本女子大学

へ進学しますが、他大学進学を選んだ生徒を応援する雰囲気もあります。優秀な卒業生の活躍により、多くの大学に指定校推薦枠があります。大学授業見学や研究室訪問、学部学科説明会などの機会が設けられ、担任教員との面談を経て、最適な進路をじっくり選択していくことができます。

■現役大学進学者の進路の内訳



★他大学への合格状況(2023年度) 北海道大1名、東京外国語大1名、東京芸術大1名、早稲田大14名、慶應義塾大19名、上智大21名、東京理科大4名、立教大17名、中央大14名、明治大12名、青山学院大12名、北里大5名、昭和4名、東京女子医科大2名、東邦大1名など

■併設大学(日本女子大学)への推薦状況

	文学部	理学部	家政学部	人間社会学部	国際文化学部
21年	49名	14名	160名	73名	
22年	32名	19名	141名	95名	
23年	12名	26名	129名	74名	35名

★指定校推薦枠(2023年度) 早稲田大1名、慶應義塾大3名、上智大5名、東京理科大5名、学習院大9名、青山学院大5名、立教大3名、法政大3名、中央大12名、北里大4名、東京歯科大1名など

入試情報

■過去2年間の入試結果

		募集人員	応募者	受験者	合格者	実質倍率
22年	一般1回	約100	248	221	120	1.8
	一般2回	約40	355	183	48	3.8
	帰国	約10	2	2	2	1.0
23年	一般1回	約100	245	213	120	1.8
	一般2回	約40	336	163	59	2.8
	帰国	若干	3	3	2	1.5

■2023年度入試 受験者・合格者の教科別平均点

		算数	国語	理科	社会	合計
一般1回	受験者	30.1	37.2	28.8	22.6	118.8
	合格者	36.4	41.0	31.1	25.2	133.7
一般2回	受験者	26.5	28.8	23.9	23.0	102.2
	合格者	38.9	35.4	27.0	27.1	128.5

○配点：算国=各60点 理社=各40点

○合格最低点：1回116点 2回111点 帰国は非公表

23年の募集要項

※以下は2023年の募集要項です。2024年の要項は学校の発表をお待ちください。

入試日/①2月1日 ②2月3日 帰国2月1日

募集人員/女子約140名(①約100名 ②約40名 帰国約若干名)

合格発表/ホームページで即日

手続締切/①・帰国2月3日 ②2月5日

試験科目/国語(50分・60点)、算数(50分・60点)、理科(30分・40点)、社会(30分・40点)

面接/あり(個人)

帰国生のための試験/国語(40分)、算数(40分)、面接(個人)

受験料/25,000円(2回同時出願の場合は40,000円)

公開行事・説明会予定

【学校説明会】要予約

9月 9日(土)

【学校説明会(Zoom)】要予約

10月21日(土)

【授業見学説明会】要予約

10月17日(火)

【オープンスクール】要予約

6月17日(土)、7月30日(日)

【入試問題解説会】要予約 6年生対象

11月18日(土)

【十月祭(中学文化祭)】要予約

10月 7日(土)、10月 8日(日)

【親子天体観望会】要予約

12月 2日(土)

◆変更・中止の可能性もあります。必ず学校ホームページで確認してください。

サピックスOGの声

- 「森の中の学校」といわれるように、キャンパスは多摩丘陵の緑豊かな環境にあるので、常に自然が感じられます。女子大の付属校らしさを感じるのは家庭科です。裁縫や料理など実践的かつ本格的なものが多く、料理ではアジの三枚おろしのほか、ギョーザは皮から作り、裁縫ではかっぽう着を製作しました。長期の休みには、自分で献立を考えて調理し、それをレポートにして提出しました。